

名立区 地域協議会だより

第37号 2020年7月発行

発行：名立区地域協議会
編集：協議会だより編集委員
事務局：名立区総合事務所
総務・地域振興グループ
電話：025-537-2121

感謝の気持ちを込めて

第4期会長 塚田 正



謹啓 皆様こんにちは。ご無沙汰しています。早いもので今年の半分が過ぎました。4

月末には地域協議会の新しい委員が選出されました。私事で恐縮ですが、合併後間もなく本協議会が設立され、4期16年の長きにわたり、その会長として務めさせて頂きました。皆様方のご指導ご協力にあらためて感謝申し上げます。顧みますと、将来的な公共交通体系のあり方や、高齢者福祉施設の設定等、重要案件については他団体の協力をいただきながら、それぞれ目標が達成され、現在に至っています。

また、地域活動支援事業についても、住み良い地域づくりを目指し、多くの事業が展開されています。年を追う毎に底辺の輪が広がりを見せ、そのユニークな事業は、名立区のみならず市全域からも高い評価と注目を集めている事業が実施されていることは、本事業に対する関心の高さを如実に物語っていると確信しています。

今後は新進気鋭の原田新会長のリーダーシップのもと、ご発展と皆様方のご健勝を祈念申し上げ、退任のご挨拶とさせて頂きます。大変ありがとうございました。合掌

地域協議会副会長の退任にあたって

第4期副会長 奥泉 稔



私は2期8年間、地域協議会委員を務めさせて頂きました。私は一市民として何が出来るか最初は戸惑いもありました。しかし、

2期目の4年間は副会長として会長の補佐役の指名を受けました。そこで、身の周りの何か自分に解決出来る課題はないのか考えてみました。そこで私は名立区内の防犯面での課題に取り組んでみることにしました。その中で気が付いた事があります。それは、旧名立公民館の跡に出来たコミュニケーションプラザにAEDが設置されていないことです。何とか設置できないか各部署に相談した結果、総合事務所の協力を得てAEDが設置されました。

新しく地域協議会委員に任命された皆様も、1期4年間で自分に何が出来るか課題を見つけ、頑張りたいと思います。

8年間、協力し指導して頂いた皆様に感謝しますとともに、私も名立区の一員として協力を参ります。ありがとうございました。



前期4年間を振り返って

徳田 幸一

委員として8年、前期の4年間もあっという間に終わりました。地域協議会では、地域の大きな役割として市長からの諮問事項や、名立区の課題を解決するための自主的審議事項、地域活動支援事業の審査・採択等を協議しています。

3期目は福祉、交通分野で2つの分科会を設置し、市長へ意見書を提出し、問題解決に努めました。4期目は過疎化が進む中、「ろばた館」の存続で激論を交わしましたが、未解決のまま任期を終えました。会議中は12人がそれぞれに意見を出し合い、十分な議論の中で方向性を見出せなかったのが原因かもしれないと感じています。旧委員各位には「お疲れ様」、新委員には「共に発信していこう」とエールを送りたい。

第4期地域協議会の実績

第4期名立区地域協議会委員の任期は、平成28年4月29日から令和2年4月28日までの4年間で、合計48回の会議を開催し、諮問事項の審議や自主的審議等を行いました。

- ① 諮問事項の審議：7件
- ② 自主的審議：1件
→「ろばた館の存続に向けて」
- ③ 地域協議会だより発行回数：8回
- ④ 先進地視察：大島区、十日町市等





第5期名立区地域協議会委員を紹介します



第4期地域協議会委員の任期満了に伴い、第5期委員の選任が行われました。

第5期委員の任期は、本年4月29日から、令和6年4月28日までの4年間です。

地域協議会は、身近な地域の課題などについて、住民の皆さん自らがその解決方法や解決に向けた取組方法などを話し合い、その結果に応じて、地域団体などとの連携・調整を行うほか、市長に意見として伝えていく機関であり、諮問事項の審議や自主的審議などを行います。

名立区地域協議会委員は12名、うち6名が新任です。「だれもがいつまでも住みよいまちづくり」の実現に向けて、地域の皆さんと一緒に頑張りますので、4年間よろしくお願ひします。

■□ 地域協議会委員名簿 □■

氏名	町内会	期数
石井 浩順	小田島	1期目
草間 照光	不動	2期目
小林 晴子	車路	1期目
大門 廣文	小泊4	1期目
高宮 秀博	不動	2期目
竹内 隆	赤野俣	1期目
徳田 幸一	川端	3期目
中野 祐	田野上	1期目
二宮 香里	丸田	2期目
畑 芳雄	仲町	1期目
原田 秀樹	新井町	3期目
三浦 元二	横町山	4期目

50音順 敬称略

名立区を想う

会長 原田 秀樹

令和2年度は新型コロナウイルスとの闘いで始まりました。今この瞬間も厳しい環境の中ご尽力いただいている多くの方々に心から感謝申し上げます。

このような状況の中、塚田前会長様から地域協議会会長の職を引き継ぐこととなりました。塚田様の丁寧な会議進行や、行き届いた気遣い等は私共の理想とするところではありますが、今の自分の精一杯をもって、ことに臨みたいと思っております。

名立区地域協議会は、名立区の地域のこと全てが協議の対象となります。これから新型コロナウイルスとの共存の中で、どんな名立の、ふるさとの在り方を想像できるでしょうか。この地域に関わりのある全ての人たちと話し合い、お互いに認め合い、ともに共有できるふるさとの在り方を求めていけたらと思うのは、欲張りでしょうか？

ともあれ日々一日一日を丁寧に皆様のご協力をいただきながら、一歩ずつゆっくりと進みたいと思っております。よろしくお願ひします。



副会長になって

副会長 高宮 秀博

4月より、第5期目の名立区地域協議会がスタートしました。

名立区においても、少子高齢化や過疎化が進んでいます。名立区の住民がいかに健康やかな生活が出来るか、地域の皆さんの意見をお聞きしながら、委員同士で話し合い、市政に伝えていけたらと思います。

私は委員を務めて2期目となりますが、前期4年間の活動を通して大変勉強になりました。他地区の問題や、それに対する取り組み方、考え方などを研修に参加して得た知識を名立区の問題解決のための役に立てることができればよいと考えています。今期は副会長として、微力ではありますが、4年間頑張りたいと思っております。よろしくお願ひします。

名立区地域協議会開催状況

- 5月20日(水)
 - ・第1回地域協議会開催
- 6月6日(土)
 - ・第2回地域協議会開催
- 7月2日(木)
 - ・第3回地域協議会開催
- 8月20日(木)
 - ・第4回地域協議会開催予定

お気軽に傍聴へお越しください!!



新たな委員6名より「挨拶

特色を活かした町づくりを

石井 浩順

上名立地区の委員がいないということで軽い気持ちで引き受け、早くも3か月になろうとしています。

名立区は、豊かな自然と縄文時代から続く歴史と文化の地です。最近では少子高齢化が進み人口も少なくなっています。しかし、この地区を活性化し、より良くするため多くの方々

が知恵を出し合っています。委員として最初に関わったことは「地域活動支援事業」の審査でした。それぞれの地区の特色や歴史、地域の課題解決に向けた事業内容を展開するための提案に胸が熱くなるとともに、区内全域からの提案がないのは、少し寂しいものを感じました。大した知恵も経験もありませんが、「ふるさと名立」を良くしていくために精一杯務めて参ります。

自然を楽しむ

小林 晴子



8年間、県外で仕事をしていましたが、子育ては自然がいっぱいの名立が楽しそうと思い、名立に帰って来ました。楽しい子育ても終わり、親

の介護もありますが、最近では夫とふたり暮らしになりました。この頃は、新型コロナウイルスのために生活が大きく変わり、会議でもとても気を使われている様子です。

「地域協議会」という名前は知っていましたが、その仕事内容は知りませんでした。委員になってみて、地域がどのように活動しているのかが見えてきます。活動の活発な地域とそうでない地域、長い名立を知る良い機会です。勉強させて頂きます。よろしくお祈りします。

地域協議会委員として

大門 廣文



新型コロナウイルスの影響で自粛が続く中、少しでも「名立」を明るくしたいと思い、今まで会社と家の往復で周りに眼を向けることができなかったことを反省し、このお話を受けさせて頂きました。お役に立てるかどうかは分かりませんが、私なりに精一杯頑張りたいと考えているところです。

名立の今までと今のこと、そしてこれからのこと、更には明るい名立に想いを馳せ、取り組んでいきます。よろしくお祈りします。

今、思うこと

竹内 隆

旧名立町時代に公民館の担当で、活動を共にした職員に声を掛けて頂き、地域協議会の一員として名を連ねることになりました。

駆け出しの身の私では、まだ委員として抱負を語れる立場にはないと思っ

ていますので、あらためてここ名立区の課題は何かを探すことから始めてみようと思っています。見えているのは、人口減少と45%に達しようかという高齢化率です。自身も介護保険の被保険者証を持つ身として、この地で安心して生活するには何が必要なのか、今は良くても10年後、15年後には確実に老いが我が身の問題となることは確かであり、他人事ではなく、真剣に考える必要があると思います。

そして、高齢者運転の事故も深刻な社会問題となっていますが、「運転に自信がなくなったら免許証を返納」ということが、ここに住んでいて簡単な事とは思えません。車が無くても高齢者が生活できるまちづくりは可能でしょうか？考えながら活動していきたいです。



抱負

中野 祐

今回初めて地域協議会委員を務めさせて頂くことになりました。

7月といえば七夕、こどもの頃にお宮で七夕提灯削りをしました。子どもが少なくなり、途絶してしまった田野上の七夕祭です。子どもの減少は名立だけの事ではなく、直江津や高田の市街地然り、各地に造成されたニュータウン然りです。この人口減少が進む社会を如何に住み良くしていくか、これが私に課せられた務めと思っております。初めから大仰な事を書いてしまいましたが、よろしくお祈りします。

名立区を元気に

畑 芳雄



地域協議会委員のお話を頂き、自分出来る事なのかと不安もありました。しかし、自分が名立で生活出来ているのは、今日まで地域を守り続けてくれた先輩方のお陰だと思ひ、感謝の気持ちがあります。

「地域を活性化し守る」事は、口では簡単に言えますが、行動で示すことは大変です。でも、その地域活動に少しでも役に立つことが出来ればと思ひ、委員になりました。他の委員の皆様

令和2年度地域活動支援事業～9件の事業を採択しました～



私たちの地域をもっと住みよく、もっと元気にするため、地域の皆さんが行う「まちづくり活動」を募集したところ、名立区では9件の提案がありました。名立区地域協議会では、6月6日に、提案をいただいた団体を招いてプレゼンテーション審査を実施した結果、全ての事業を採択しました。名立区では、地域活動支援事業を活用して、子どもから高齢者までが一緒に楽しめるイベントや、地域の歴史や文化を継承するための取り組みなど、沢山の事業が実施される予定です。地域の皆さんのご協力、ご参加をよろしくお願いたします。 ※下記の採択事業は、受付順で掲載しています。

採択した事業名	【採択額】	団体名	事業概要
名立区いきいきサロン運営事業	【541千円】	名立区いきいきサロン運営協議会	高齢者の閉じこもり防止、健康維持、介護予防を目的としたサロン活動を行う。
2020年 ふるさと交流事業	【521千円】	不動森あげ米かい	不動地区への訪問や交流促進を目的に「ひまわりの育成」と、「キャンドルロード」を行う。
名立区赤野俣町内会地域活性化事業 ～赤野俣イルミネーションロード～	【395千円】	赤野俣町内会	既存大型ライトの更新と、イベントの開催により、町内会の地域活性化につなげる。
「名立区写真フェア」事業	【434千円】	NPO法人 名立の100年後を創造する会	名立区の魅力を区外に発信するため、プロの写真家による講演や撮影指導を行うとともに、写真コンテストを開催する。
「名立 IC 前の里山・宇山整備」と狼煙上げて賑わいを創出する事業	【290千円】	名立の100年後を創造する会	「宇山」を題材に、見て癒され、散策して楽しみ、狼煙を上げて愉しみ、学んで自慢のふるさとの魅力を発信するイベントを開催する。
名立駅マイ・ステーション作戦事業	【275千円】	名立駅マイ・ステーション作戦実行委員会	名立駅の利用促進と地域活性化を目的に、駅周辺の環境整備や情報発信等を行う。
横町第1・2セントラルパークづくり事業	【84千円】	横町山・川町内会	町内の空き地を有効活用し、地域の居住環境の整備と整備を通じた住民の交流を図ることを目的に緑化活動を行う。
ふるさと不動地区・水源の森歴史探究事業	【580千円】	不動を創る会	歴史資料の整理や現地研修を行い、水源の森や林道南葉山線を活用した地域づくりの計画を作成する。
不動地区 地域の史跡再発見事業	【190千円】	不動町内会	新たな町内会が発足したことを記念して、地域の史跡を巡る史跡ウォークを開催し、住民同士の交流を図る。また、「いわおの石仏群」の落石防止工事を実施する。



地域活動支援事業【追加募集】提案受付中

～名立区が目指す将来像～「誰もがいつまでも住みよいまちづくり」の実現に向けて

- 追加募集額 189万円（当初募集の残額です）
- 募集期間 7月1日（水）から31日（金）まで
- 応募方法 所定の事業提案書に必要事項を記入し、説明資料（団体の規約、見積書等）を添えて、名立区総合事務所の総務・地域振興グループまでご提出ください。

まずは総合事務所までご相談ください



編集後記

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月と4月の会議が中止となり、編集会議も開かれず、今回2号分の掲載となりました。任期満了の改選もあり、今期をもって会を離れられる委員の方々と挨拶も出来ず終了してしまつたことは、大変残念でした。6名の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。これからも見守って頂けたら幸いです。

第5期の地域協議会だより編集委員は、石井浩順、徳田幸一、中野祐、二宮香里、正・副会長の6名です。よろしくお願いたします。新しい生活様式を取り入れた毎日は、我慢することも多く、少し窮屈に感じます。でも、ピンチはチャンス。リモートで働ける都会の人たちが、美しく自然豊かなこの町に移住を考えるかもしれません。誰もがいつまでも住みよいまちづくり、更に進めていきたいと思います。

（編集委員 二宮 香里）

